

大黒屋農園(下呂市)▼トマト2期作挑戦

ふしみ営農(御嵩町)▼耕作放棄地を防止

「農業賞」県代表決まる

意欲的に経営や技術の改善に取り組み、地域社会の発展にも貢献している個人や組織を表彰する「日本農業賞」の県代表に、下呂市の大黒屋農園(曾我純次社長)と可児郡御嵩町のふしみ営農(鍵谷幸男代表理事)が選ばれ、岐阜市内で賞状が授与された。(小森直人)

J A岐阜中央会などトマト2期作にも取り組み、出荷期間の延長が主催し、44回目。大黒屋農園は「個人経営の部」の代表。通年で大型雨よけハウス菌床シイタケを栽培、など独自のハウスを設

や、楽しく働いてくれるスタッフのおかげ。鍵谷代表理事は「都市近郊型農業のモデルとなれるよう関係機関に指導を仰ぎ、一生懸命やってきた。食の安全を第一に、安定経営に努めたい」と語った。全国審査の結果は来年2月ごろ発表される。



岡田忠敏会長(右端)から表彰された鍵谷幸男代表理事(左端)、曾我純次社長(右から2人目)ら＝岐阜市内

計・施工して、資材費も節約している。一方、農家14戸でつくるふしみ営農は「集団組織の部」の代表。稲や大豆などを栽培するほか、J Aを窓口にして農作業を受託して耕作放棄地の発生を防ぐなど、集落の存続や活性化を目指す活動を展開、地元小中学生への食農教育にも取り組む。

表彰式では、J A岐阜中央会の岡田忠敏会長が、曾我社長と鍵谷代表理事らに賞状などを贈った。曾我社長は「田舎には農業しかないとの信念で頑張ってきた。ファンの消費者